

令和2年度 下妻特別支援学校 進路支援の方針と取り組み

※下図の網掛け部分：主に進路体験実習（現場実習）に関するもの

進路支援部

| | | 小学部 | 中学部 | 高等部 | |
|---------------|--|--|---|---|--|
| キャリア教育の段階 | | 進路の探索・選択に係る基礎形成の時期 | 現実的探索と暫定的選択の時期 | 現実的探索・試行と社会的移行準備の時期 | |
| キャリア教育課題 | | <ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発達 身の回りの仕事や進学、環境への関心・意欲の向上 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 勤労を重んじ、目標に向かって努力する態度の形成 運動機能を補う様々な支援への気付き | <ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味関心等に基づく職業観、進学観、勤労観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 運動機能を補う様々な支援の活用 | <ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての職業観、進学観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加 運動機能を補う様々な支援を活用し、社会自立に向けた具体的な取組み | |
| 能力領域 | | 小学部段階で育てたい力 | 中学部段階で育てたい力 | 高等部段階で育てたい力 | |
| 形成関係 | 他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同して物事に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> 自己の長所や欠点に気付き、自分らしさを発揮する。 異年齢集団も含めた友達との活動に楽しんで参加し、協力しながら役割と責任を果たそうとする。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の悩みを話せる友人や支援者をもつ。 自分の身体の変化や運動機能制限を受け止めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 職業、進学の関係における自己の能力・適性を分析・理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 他者の価値観や個性を理解し、それを受け入れる。 | |
| 情報活用 | 学ぶことや働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。 | <ul style="list-style-type: none"> 身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心をもつ。 分からないことを調べたり、質問したりするなど、自分に必要な情報を探す。 自己の運動機能の特性に応じた技能獲得を練習していく。 | <ul style="list-style-type: none"> 社会における就業、進学に関する仕組み、流れを知る。 様々な体験を通して、勤労の意義や働く人々の思いが分かる。 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路や職業の動向について、多面的・多角的に情報を集め、分析する。 職業生活における権利・義務、責任及び手続き・方法等が分かり、障害福祉サービス等を実生活で活用する。 | |
| 将来設計 | 夢や希望をもって、将来の生き方を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。 | <ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や希望をもつ。 決められた時間やきまりを守ろうとする。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の役割やその進め方、集団活動中の役割分担やその方法が分かる。 自分の目指すべき将来を暫定的に計画し、当面の目標を立て、その達成に努力する。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校、社会において自分の果たすべき役割を自覚し積極的に役割を果たす。 生きがい、やりがいがあり、自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 | |
| 決意力 | 自らの意思と責任によりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題に積極的に取り組み克服する。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の決めたことに責任を感じ、最後までやり通そうとする。 自分の力で課題を解決しようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> 自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択をしようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> 進路選択の基準となる、自己の価値観、職業観、勤労観をもつ。 将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。 | |
| 配慮事項 共通領域 | <ul style="list-style-type: none"> 校内での授業が多く、校外に出かけて社会の情報が入りにくいので、社会的事象の様々な情報提供を工夫する。 就職、進学の両面から情報収集できるように、卒業後の多様な進路先について知る機会を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> 自らの運動機能の制限を受容した上で、身体的機能の制限を補う、自らに適した手段や技能（P C入力等）を身につける。 保護者の理解を図り、進路決定に向けて土台作りを家庭と連携して取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> 進路希望については、具体的に達成可能な進路希望に変更するなど、進路計画を修正・変更し、新たな準備を開始できるようにする。 | | |
| 高等部の進路決定までの流れ | 進学希望 | 就職希望 | 障害福祉サービス利用 | | |
| | 大学 専門学校 | 一般就労 | 福祉的就労（就労移行、就労A B） | 生活介護 施設入所支援 | |
| | 1年前期 | 就労に有利なP C検定等の各種検定について理解する。 | 第Ⅰ期進路体験実習（校内実習：生徒の実態、進路想定により各実習班での実習） 進路体験実習（校内実習）等を通して自己の適性を知り、将来の進路選択に活かす。 将来、利用する障害福祉サービスを選び、居住地の近隣の福祉事業所を検索する。 | | |
| | 1年後期 | 各種検定を受験し、資格を取得する。 自己の能力と適性を知る。 自分に合った進学先を考える。 | 第Ⅱ期進路体験実習（校外実習：事前相談、巡回指導、実習反省会）（校内実習：生徒の実態、進路想定により各実習班での実習） 校外実習を通して、将来、働くことについて考え、自己の能力と適性を理解し、将来の仕事の適性を踏まえ、進路選択に活かす。 ★年間を通して 「継続的な障害福祉サービスの利用、福祉事業所の見学の推進」 【日中一時支援、放課後等デイサービス、短期入所等】 ○福祉事業所の様子を知ることができる。 ◎福祉事業所の職員が生徒の実態を知る機会になる。 就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、生活介護等の障害福祉サービスは、在学中は利用できないので、できるだけ福祉事業所の見学やイベントに参加することを推進する。 | | |
| | 2年前期 | 自分の進路先の通学・通勤の方法を考え、必要に応じて、運転免許の取得方法や手続きの仕方について学習する。 | 第Ⅰ期進路体験実習（校外実習：事前相談、巡回指導、実習反省会）（校内実習：生徒の実態、進路想定により各実習班での実習） 進路体験実習後の評価（課題）を把握し、課題を克服するために普段の学校生活を見直し、改善する。 ★必要に応じて実施する。 「就労体験実習：5日間」 進路希望や卒業後のスケジュールを想定し、実習先を絞り込み、次回の実習先を決める。 | | |
| | 2年後期 | 大学入試センター試験を受験するか検討する。 | 第Ⅱ期進路体験実習（校外実習：事前相談、巡回指導、実習反省会）（校内実習：生徒の実態、進路想定により各実習班での実習） 進路体験実習後の評価（課題）を把握し、課題を克服するために普段の学校生活を見直し、改善する。 ★必要に応じて参加する。 「障害者就職面接会（9月、2月）」 ・実習の体験を通して、就労に必要な能力、態度を身につける。 ・雇用に向けて、一般事業所と連携を深める。 進路希望や卒業後のスケジュールを想定し、実習先を絞り込み、次回の実習先を決める。 | | |
| | 3年前期 | 志望校の決定と受験の対策をする（論文、面接、各種配慮申請等） 受験科目の重点学習 | 第Ⅰ期進路体験実習（校外実習：事前相談、巡回指導、実習反省会）（校内実習：生徒の実態、進路想定により各実習班での実習） 進路体験実習後の評価（課題）を把握し、課題を克服するために普段の学校生活を見直し、改善する。 今までの実習先や利用している福祉事業所の中から、卒業後のスケジュールを想定し、第Ⅱ期の実習先を決める。 夏の福祉相談・説明会（参加者：生徒、保護者、学級担任、相談支援専門員）※地域によっては、近隣の特別支援学校と合同で実施する。 居住地の障害福祉担当課に出向き、卒業後の生活や障害者年金などの支給できる支援、必要となる手続きについての説明を聞く。 | | |
| | 3年後期 | 願書を取り寄せて出願し、受験の対策をする。 受験の準備 入学試験 | 就職に有利なP C検定等の各種検定を受験し、資格を取得する。 障害者雇用に向けて、一般事業所と雇用条件等を最終調整をする。 卒業後、就労移行支援のサービスを利用せず、直接、就労継続支援B型の福祉事業所を希望している場合は、相談支援専門員を通して、在学中に暫定的に「就労移行支援」のサービスを受給してもらい、就労移行支援のサービスが利用できる福祉事業所で就労アセスメント（就労評価）を実施する。 できるだけ卒業後の日中活動を想定した曜日で、実習を計画し、実施する。 卒業後の受け入れに向けた課題がある場合は、学校、家庭、実習先と共有し解決する。 ★必要に応じて、進路先が決定していない場合は、早急に進路体験実習（臨時）を計画、実施する。 「進路希望最終確認票」を取りまとめ、卒業後の進路先を決定する。 福祉事業所に最終的な受入を依頼し、利用する曜日等について、保護者や相談支援専門員、福祉事業所の担当者や相談、調整して決定する。 卒業後の進路先で移行支援相談を実施する。（参加者：生徒、保護者、学級担任、相談支援専門員、又は就労支援員） | | |